

門真市教育振興基本計画の基本理念と基本目標

基本理念

子どもの夢と幸せをみんなではぐくむ門真の教育

基本目標

基本目標1


0歳からの15年一貫教育で
子どもの夢と幸せをはぐくみます


基本目標2


多様な学びの機会を実現する
充実した教育環境をつくり
ます

基本目標3

子どもを真ん中に学校、家
庭、地域、行政がつながり
ます

- 
- 1 確かな学力をはぐくみます
 - (1) 子どもの主体的な学びの育成
 - (2) 一人ひとりの学びに応じた学習支援
 - 2 豊かな心と健やかな体をはぐくみます
 - (1) 自分の将来を描ける力を育成
 - (2) 門真市開発的生徒指導の推進
 - (3) 豊かな心をはぐくむ教育の充実
 - (4) 食育・健康づくりの推進
 - 3 障がいのある子ども一人ひとりの自立を支援します
 - (1) 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進
 - (2) 教職員の専門性の向上
 - (3) 障がいのある子どもへの切れ目ない支援
 - 4 15年一貫教育を進めます
 - (1) 就学前教育・保育施設及び小学校間との連携の推進
 - (2) 小中一貫教育の推進
 - (3) 子どもの読書活動の推進
 - (4) 学校における英語教育の充実
 - (5) 公民協働による英語学習の充実

- 
- 1 新たな時代にふさわしい育ちの環境をつくり
ます
 - (1) 就学前教育・保育を実現できる環境づくり
 - (2) 小中一貫教育を進める環境づくり
 - (3) どの子どもも学べる場所づくり
 - (4) 学校図書館の充実
 - 2 「チーム学校」をつくります
 - (1) 子ども一人ひとりの課題に沿った支援
 - (2) 子どもと向き合う時間を確保
 - (3) 教職員の資質向上
 - 3 安全・安心で自立した学校をつくります
 - (1) 学校施設の改善
 - (2) 学校の自立性の確保

- 
- 1 継続性のある子育て支援でみんながつながります
 - (1) 家庭への子育て支援
 - (2) 地域による子ども見守り活動の推進
 - 2 子どもの居場所づくりでみんながつながります
 - (1) 子どもの居場所づくりの推進
 - (2) 子どもの学習支援の推進

「門真市魅力ある教育づくり審議会」の審議内容 (平成28年11月～平成30年8月)

「門真市教育振興基本計画」において練り上げた実施施策の中でも、計画期間である5年間に重点的に取り組むべき喫緊の課題、これと解決策の審議。

計画期間である5年間だけではなく、長期的視野に立って検討・準備すべき課題も併せて審議いただいた内容を基に、今後、本市の学校が一層魅力ある学校として子どもや保護者の目に映るよう、具体的な施策としての審議。

「門真市魅力ある教育づくり審議会の答申 5つの提言」

(1) 横のつながりや縦のつながりなど、多様な人間関係の構築をとおして主体的に学び合える学校環境づくりについて

(2) すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設のあり方について

(3) いじめ防止指針の策定及び不登校問題の対策について

(4) 門真の子どもたちの自己実現に向けて

(5) 門真の子どもたちへの支援に向けて

学校環境や学校施設など学校のあり方については、主に(1)(2)で取り上げられているところです。

(1) 横のつながりや縦のつながりなど、
多様な人間関係の構築をとおして主体的に学び合える学校環境づくりについて

学習指導要領の改訂を受け、今後は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを行える学校環境づくりが重要
そのためには、多くの仲間や教職員・地域の方々と触れ合いながら、多様な価値観に出会い、違いを認め合いながら学び合
う環境づくりが必要

現在、門真市においては少子化が進み、すでに全学年1学級となっている小学校や、新1年生が19人という学校も出てきている。

- ・ 6年間クラス替えができないと、人間関係が固定化される。
- ・ 教職員数が少なくなり、1人の教職員が担当する校務分掌業務が増える。

といった課題もでてくる。

学ぶ意欲の向上のためには、児童・生徒にとっても、教職員にとっても、横のつながりや縦のつながりをもとに、多様な
人間との豊かなつながりを構築しながら、教育活動が行えるような教育環境を作ることが重要。

その実現に向けて、早急に今後の門真市全体の学校のあり方を検討していくことを求めます。

(1) 横のつながりや縦のつながりなど、
多様な人間関係の構築をとおして主体的に学び合える学校環境づくりについて

門真市では、多様な人間関係の構築による「小中の円滑な接続」を考え、2小1中体制というコンセプトで小中一貫教育を推進。

- ・ 少子化が進み地域によるアンバランスが生じ始めている。
- ・ 小中を超えた教員間の連携はあるものの、子どもどうしが一緒に教育活動を行うためには物理的な距離が大きな課題

今一度中身を検証のうえ、これまでのコンセプトを変更し、より有効な小中一貫教育を考えていくことが重要
具体的には、小中一貫教育をより円滑に行えるように、現状に即した新たな流れをつくることも重要

「小中一貫校」「義務教育学校」等の考えも含めた学校施設のあり方を検討することを求めます。

(2) すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設のあり方について

門真市の学校は、高度経済成長期に一気に建設が進められ、現在、耐震工事は行っているものの、築40年を迎え、老朽化している校舎が多い。

「主体的で対話的な授業展開」への対応や、英語教育・ICT機器への対応等、柔軟かつ効果的な授業展開などに資するような環境と言えない状況。

学校環境になじめない子どもたちの気持ちを落ち着かせたり、面談したりする際に使用できる落ち着いた雰囲気の部屋や、学級だけでなく学年全体や異年齢集団など大勢の子どもたちが集えるような部屋も不十分な状況。

本年6月18日に発生した大阪北部地震では、改めて学校施設の安全性について、警鐘が鳴らされた。

(2) すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設のあり方について

画一化された教室だけではなく、パーティション等により分割できる多目的ルームなど、新しい学習指導要領により探究的な学習や主体的な学習が中心となる時代に合わせ、校内に多種多様な空間を設置することが大切。

子どもの学ぶ意欲の向上を図れるような授業づくりには、ICT機器の有効な活用も効果があるものと考えられ、学校ICT環境のさらなる整備を求め。

どのような立場の子どもにも居場所があり、子どもたちが多様な人間関係を構築できるような環境をつくるという観点が欠かせない。

障がいのある子どもや、外国につながる子ども、厳しい家庭環境にある子どもなど、様々な立場の子どもたちにとっても優しい授業や教室、学校環境をつくることを考慮し進めることが、望ましい学習環境づくりにつながる。

市内学校の再編統合についても早急に検討を進め、新しく衛生的で、どの子にも優しく、そして安全・安心でかつ、防災機能も兼ね備えた学校施設を順次つくっていくという方向性を打ち出すことも重要かつ必要。

子どもたちが多様なつながりを持つためには、学校が社会に開かれた学校となり、地域と一層の連携を図ることも有効。

学校の敷地内に小さな子どもや高齢者の居場所があるといった、幼少期から高齢期までの人の生き方が見えてくるような学校づくりという観点も大切。

地域住民と子どもたちが適度な距離感を保ちながら、快適に過ごせるような学校施設は、子どもたちの豊かな学びを実現するうえで効果的。